

令和7年10月1日

吉川福祉専門学校

校長 久田 晴實

令和7年度 第1回教育課程編成委員会報告の公表について

教育課程編成委員会による本校の「第1回教育課程編成委員会報告」を公表します。

1 委員名簿

委員長：久田晴實委員 副委員長：鯉沼聡美委員

(1) 外部委員

阿部 慎也	グループホーム サンパティオ 施設長
岩上 勉	吉川市健康長寿部長寿支援課 課長
小湊 竜一	特別養護老人ホームしょうぶ苑 施設長
與儀 忍	高齢者福祉施設やしお苑 副施設長

(五十音順)

(2) 学校側委員

久田 晴實	吉川福祉専門学校長
鯉沼 聡美	同 教務主任
山本 晃市	同 事務長
田村 貴章	同 事務長代理

2 教育課程編成委員会の開催状況

日時：令和7年7月24日（木）10時40分～11時40分

会場：吉川福祉専門学校 演習室

参加委員：上記外部委員4名、学校側委員3名

欠席委員：田村 貴章

3 委員会次第

開会

(1) 委嘱状交付

(2) 委員の紹介

(3) 校長挨拶

(4) 委員長選出

(5) 報告

① 令和7年度教育課程編成方針及び特色について

(5) 協議

① 今後の教育課程編成に向けて

② 授業内容等の改善及び工夫について

(6) その他

① 今後の予定

② 事務連絡等

閉会

4 第1回委員会議事要録

別紙のとおり

以上

令和7年度 吉川福祉専門学校 第1回教育課程編成委員会議事要録

令和8年1月6日

- 1 委嘱状の交付 省略
- 2 委員の紹介 省略
- 3 校長挨拶（学校概要の説明） 省略
- 4 委員長選出 久田校長
- 5 報告事項
(1) 令和7年度教育課程編成方針及び特色について
- 6 協議事項
(1) 今後の教育課程編成に向けて
(2) 授業の内容等の改善及び工夫について

外部委員及び学校側委員からの提言と質問事項等

- (学校) 令和7年度入学生より教育課程を変更した。主な変更点は3つである。
- 1つ目は、一部既存科目の名称の変更ならびに通年科目を半期科目で評価できるように変更した。2つ目は、一部科目について教育内容を見直し、時間の変更を行った。詳細としては、レクリエーションの科目および手話と点字の科目を60時間から30時間に変更。また、3名の講師で分担して担当していた生活支援技術（住居・被服・栄養調理・家庭生活）の科目について、1名で対応できるように変更した。3つ目は介護実習を57日間（456時間）から60日間（480時間）に変更した。
- (学校) 本校の卒業生（学生）が、就職先の各施設様が求めている介護福祉士像に、どういったところが合っていて（足りていて）、どういったところが合っていない（足りていない）のかなど、忌憚のないご意見をお聞きたい。
- (委員) 吉川福祉の卒業生は、利用者さんへの対応もとても丁寧で倫理観もしっかりとした人が多いと感じる一方、自分と意見が合わない（違う）人との折り合いのつけ方や、人から少し強めに意見を言われた時の受け止め方など、もう少し「心の強さ」を持ち合わせられるといいのではないかな。

(委員) 吉川福祉の卒業生は、高校新卒者から社会人経験のある既卒者まで、幅広い年齢の方が学ばれているため一概には言えないが、若い方は吸収力が高く、社会人経験のある方は目的意識の高い方が多い印象を持っている。一方で、多様な働き方が推奨される中、決して悪いことではないが、ここ数年の入職者の傾向として、少しプライベートの意識が強い(仕事とプライベートのバランスがあまり上手でない)方が増えているように感じる。実際に夜勤をあまりやりたがらない理由等が、周りの職員から「ワガママだ」と誤解をされてしまうような職員もいるため、吉川福祉の卒業生に限らず、養成校の卒業生には職場で柔軟な働き方(柔軟な対応)のできる人材、社会人として責任ある行動の取れる人材になってもらいたい。

(委員) 全体的に素直な学生(卒業生)が多いと思う一方で、普段の指導(注意)ではなく、マンツーマンで指導(注意)をしなければいけない際に、すぐに泣いてしまう職員(メンタルコントロールが難しい職員)が増えたように感じる。本施設では2年前からメンター制度を導入して対応しているが、職員のメンタルケアも重要な課題のひとつと思っている。また、インスタなどのSNSが身近になった影響もあってか、特に若い世代の方々に、介護施設の利用者さんや幼稚園の園児などの情報倫理に関する意識や情報漏洩に対する意識の薄い方が、年々増えていると感じる。

(委員) 養成校の卒業生は、介護現場でよくがんばっていると思う。一方で、今の若い人たちの特徴のひとつかもしれないが、「職業倫理」を学ぶ機会がもう少しあっていいのかなと感じる部分がある。技術的な部分もちろん大切だが、社会人としてあるべき姿や、人としての成長といった部分の学びも深めていってもらいたい。

(学校) 「心の強さ」や「打たれ強さ」といったことについて、思い当たるところが多々ある。普段、なるべく学生の話进行を聞こうとするあまり、少しワガママを通し過ぎてしまっているところもあるように思う。過剰に学生の立場に立ち過ぎてしまっている部分もあるかもしれない。

(委員) 注意をされたことで、自分が全否定されたと受け取ってしまう人も増えているように思う。

(学校) 「叱られる・怒られる」と「指導される」の区別がつかない学生も多く、学生は一緒にくたに「叱られた・怒られた」と受け取ってしまう傾向が強い。学生と面談をする際には、冒頭にこれからあなたを怒るわけじゃないということを理解させるようにしている。決して厳しく接すればいいというわけではないと思う。

(学校) 心の弱い学生やキツイ言い方に慣れていない学生も多く、少しキツイ言い方だと受け取られてしまうと、すぐに「ハラスメントだ」と言い出す学生もいるので、言い方は本当に気をつけている。学生のメンタルコントロールの部分は、精神保健福祉士の非常勤講師と情報の共有をしながら今後も対応していきたい。

(学校) 学生指導の際は、「がんばっているあなたにもっとよくなってもらいたいから、これからアドバイスをするね」といった前置きがあると、よりいいと思う。

- (委員) 介護施設の人手不足や職員の高齢化が進む中、養成校に通われている特に若い世代の方の力がこれからもっと必要になってくると思う。若い人たちが経験不足なことは当然であり、その経験が足りないことで悲しい思いをするのではなく、最初からうまくいかないことは当たり前だよということを、在校生が OB や諸先輩方から話を聞く機会が増えるといいのではないかなと思う。
- (委員) 近隣の養成校が留学生の受け入れ比率をどんどん高くしている中、吉川福祉はこれまでも多くの日本人介護福祉士を輩出してこられたので、今後も期待している。
- (委員) 引き続き学生募集にも力を入れていてもらいたい。
- (委員) 世代によって価値観や考え方がものすごく変わってきている。ハラスメントの背景にも、今まで当たり前だと思っていたことが当たり前ではなくなってきている。世代の違う人たちと関係性を築いていく中では、それぞれの価値観や考え方に違いがあるということを頭の片隅に置きながら接することも必要なのかもしれない。
- (委員) 高校の進路の先生と話をする機会があったが、生徒さんたちは、そもそも介護施設に入ったこともなければ、施設の中でどういったことが行われているかなど、福祉について知らないことが多いとのことだった。また、福祉分野への進学や就職といったイメージも付きづらいとのことだった。若い人たちに福祉のことを知ってもらう（興味を持ってもらう）機会を増やすことは学生募集の観点からも良いことだと思うので、何かお役に立てたらと思う。
- (学校) 学生が社会に出たときに困らないような教育ができているのかなと、改めて思いました。委員の方からいただいたご意見を今後の学校教育に活かしていきたいと思います。